

平成30年1月30日（火）

津島市市長公室シティプロモーション課（山内、細野）

電話番号 0567-55-9589

「REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト2017」の受賞作品 ～仲手川 純一さんの「結衣公記」～が大賞に決定！

まちの魅力を再発見し、情報発信するため、そして、津島に訪れた方をもてなすことで、まちのイメージアップを図り、まちのにぎわいを創出するため、平成28年度から「津島“にぎわい”創出プロジェクト」を始めています。

昨年に引き続き、プロジェクトのひとつである「REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト2017」【資料1】の最終選考会を平成30年1月23日（火）、津島市役所で開催し、応募総数94編のうち選考対象の89編の中から大賞1編、佳作1編が決定しました。

1 受賞作品

(1) 大 賞（副賞30万円）

「結衣公記」

仲手川 純一（なかがわ じゅんいち）（津島市）

(2) 佳 作（副賞10万円）

「帰郷」

中村 浩史（なかむら ひろし）（名古屋市）

※あらすじ、受賞者コメント等は、【資料2】のとおり

2 選考の経過

【資料3】のとおり

3 最終選考委員

委員長 堀田あけみ氏（作家・大学教授）、清水義範氏（作家）、清水良典氏（文芸評論家）、熊澤尚人氏（映画監督・作家）、木全純治氏（映画館支配人）

最終選考委員プロフィールは【資料4】のとおり

4 今後の取組み

(1) 表彰式

1) 日 時 平成30年3月10日（土） 午後2時から

2) 場 所 津島市文化会館 視聴覚室

(2) 受賞作品の発表・活用について

受賞作品を収録する受賞作品集を作成し、市内公共施設等に配布するとともに、専用WEBサイト「にぎわいネット津島」に掲載するなど、津島市の魅力発信に役立ってます。また、平成31年度に映像化できるよう検討していきます。

5 参考資料

(1) 募集要項【資料1】

(2) 受賞作品のあらすじ、受賞者コメント及び最終選考委員長の講評【資料2】

(3) 選考の経過【資料3】

(4) 最終選考委員プロフィール【資料4】

【資料1】

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト2017 募集要項

津島神社、天王祭など定番の資源はもちろん、あまり知られていない魅力的な場所や日頃見かける町並み・小路・公園など自分だけのお気に入りのヒト・モノ・コトなど、津島の魅力を描いた短編小説を募集します。受賞作品をまとめた作品集を発行するなど、津島の魅力発信に役立てます。また、平成31年度に、映像化を検討していきたいと考えています。

1 応募期間

平成29年8月1日(火)～10月31日(火)

2 応募作品

下記に該当する短編小説

- (1) 津島市を舞台とした作品であること
- (2) 日本語、縦書きで400字詰め原稿、12枚～20枚の作品であること
- (3) 応募者が創作した未公表の作品であること

3 応募方法

- (1) 専用WEBサイト
- (2) メール
- (3) 郵送

〒496-0807 愛知県津島市天王通り6丁目1番地六三ビル2階204号室
一般社団法人にぎわい創出機構OSHI(短編小説コンテスト係)宛

(4) 選考

- ・一次選考で選出された作品を対象に、最終選考委員5名による最終選考会を開催し、受賞作品を選出します。
- ・最終選考委員は、委員長 堀田あけみ氏(作家・大学教授)、清水義範氏(作家)、清水良典氏(文芸評論家)、熊澤尚人氏(映画監督・脚本家)、木全純治氏(映画館支配人)

(5) 賞

大賞(1編) 賞状、副賞(30万円)
佳作(1編) 賞状、副賞(10万円)
奨励賞(2編) 賞状、副賞(5万円図書カード)

※奨励賞は高校生以下のみを対象とする。

(6) 表彰式

平成30年3月10日(土)午後2時から 津島市文化会館 視聴覚室

【資料2】

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト2017
受賞作品のあらすじ、受賞者コメント及び最終選考委員長の講評

1 大賞 1編

「結衣公記」 仲手川 純一（なかがわ じゅんいち）（津島市）

【あらすじ】

高校生の結衣は「信長公記」を読んで「信長が津島の堀田道空邸で女装コスプレしてダンスした」という故事を文化祭で再現しようとする。

【受賞者のコメント】

印鑑証明書を貰いに行った津島市総合保健福祉センターで公募のチラシを見つけて、全国の作家志望の皆さんより実際に住んでいる自分の方が津島については詳しいだろう、この短編小説の中に津島の魅力、おもしろさを自分なりに表現しよう、と思って応募してみました。文章力がないため「高校生の手記」という形にしたのが功を奏したのかなと思います。一昨年父が亡くなり地元津島に戻ってごろ寝とネットサーフィンの日々でありましたが素晴らしい評価をいただき、このごろ寝にも意味があったのだと嬉しく思っております。

2 佳作 1編

「帰郷」 中村 浩史（なかむら ひろし）（名古屋市）

【あらすじ】

DV(ドメスティック・バイオレンス、家庭内暴力)に耐えられず夫を殺した「私」は5年の刑期を終え、故郷である津島に帰ってくる。そこで、ずっと音信不通だった娘からの手紙を受け取る。

【受賞者のコメント】

受賞の電話をいただいたのが、偶然にも四十回目の誕生日。今まで賞などというものにあまり縁のない人生を歩んできた私にとっては、思わぬ誕生日プレゼントとなりました。津島というまちは、牛頭天王という神様を祀っている津島神社に昔から興味があり何度も参拝している場所でした。津島へ帰郷する風景を織り交ぜながら、主人公の心象心理を表現しました。内容は暗い作品ですが、このような作品でも賞に選んでいただけた選考委員の皆さまの懐の深さに、ただただ感謝するばかりです。このような素晴らしい賞を頂けて本当に嬉しいです。

3 最終選考委員長（堀田あけみ氏）の講評

最終選考に残った作品のレベルが非常に高かったと思います。でも、そんな中で「結衣公記」の大賞は、すんなりと決まりました。主人公とその周囲の人々が、少ない枚数の中で生き生きと魅力的に描かれていて、歴史をふまえた上で今の津島の良さを発信できている点を評価しました。小説は言葉でしか勝負できません。この作品は言葉のセンスも素敵だと思います。敢えて、とりとめなく書いているのに、よく伝わります。

佳作は「帰郷」、「千年の祝福」で、随分悩みました。私にとっては「帰郷」冒頭の、バスから見える風景と過去の記憶を並行させる書き方が大きな魅力になりました。私がいつも使っている何千回と乗った路線です。すべての情景が目に浮かんで、主人公の涙に辿り着くまで、一気に読めました。

どの作品も、今の津島の魅力を存分に伝えていると思います。

【資料 3】

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト2017
選考の経過

1 応募期間

平成29年 8 月 1 日から10月31日まで

2 応募作品数

89編 (応募総数94編のうち、選考対象外 5 編)

応募者居住地	津島市内	愛知県内 ※津島市除く	愛知県外	選考外	計
応募者数	11 人	36 人	42 人	5人	94人

3 一次選考

(1) 期間

平成29年11月上旬～12月上旬

(2) 一次選考通過作品数

13編

4 最終選考 (事前選考)

(1) 期間

平成29年12月中旬～平成30年 1 月上旬

5 最終選考会

(1) 日時

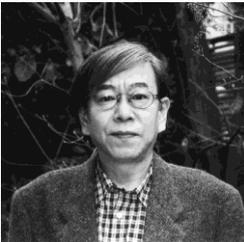
平成30年 1 月23日 (火) 午後 3 時～ 5 時

(2) 選考内容

大賞 1 編、佳作 1 編を選考

【資料4】

最終選考委員プロフィール

顔写真	経歴
	<p>堀田あけみ（作家）</p> <p>1964年 愛知県七宝町（現あま市）生まれ。作家・心理学者・椋山女学園大学教授。</p> <p>1980年 中村高校在学中に『1980 アイコ十六歳』で文藝賞受賞。</p> <p><主な著書>『イノセントガール』『唇の、することは。』『発達障害だって大丈夫』『おかあさんになりたい』『おとうさんのつくりかた』『花くらべ』『泣けてくるじゃない』『もういない、あなた』など。</p>
	<p>清水 義範（作家）</p> <p>1947年 名古屋市生まれ。作家。</p> <p>1981年 『昭和御前試合』で文壇デビュー。</p> <p>1986年 『蕎麦ときしめん』で前例のないパスティーシュ（様式模写）の分野を開拓。</p> <p>1988年 『国語入試問題必勝法』で吉川英治文学新人賞受賞。</p> <p>2009年 中日文化賞受賞。</p> <p><主な著書>『金鯰の夢』『永遠のジャック&ベティ』『イマジン』『おもしろくても理科』『尾張春風伝』『愛と日本語の惑乱』など。</p>
	<p>清水 良典（文芸評論家）</p> <p>1954年 奈良県生まれ。文芸評論家・愛知淑徳大学教授。</p> <p>1986年 群像新人文学賞（評論部門）受賞。</p> <p>1993年 名古屋市芸術奨励賞受賞。</p> <p><主な著書>『笙野頼子 虚構の戦士』『自分づくりの文章術』『村上春樹はくせになる』『2週間で小説を書く！』『MURAKAMI』『文学の未来』『あらゆる小説は模倣である』など。</p>
	<p>熊澤 尚人（映画監督・脚本家）</p> <p>1967年 名古屋市生まれ。映画監督・脚本家。</p> <p>1994年 ㈱ポニーキャニオン在職中に自主映画『りべらる』がPFFに入選。</p> <p>2003年 短編映画『Tokyo Noir～Birthday～』がスペイン映画祭に招待。ポルト国際映画祭最優秀監督賞を受賞する。</p> <p>2005年 『ニライカナイからの手紙』で長編映画デビュー。</p> <p><代表作品>『親指さがし』『虹の女神』『雨の翼』『DIVE!!』『おと・な・り』『君に届け』『ジnkス!!!』『近キョリ恋愛』『ユリゴコロ』</p>
	<p>木全 純治（映画館シネマスコーレ支配人）</p> <p>1948年 名古屋市生まれ。名古屋市中村区の映画館シネマスコーレ支配人。椋山女学院大学非常勤講師、中部大学非常勤講師。</p> <p><主な芸術活動></p> <p>1992年 アジア文化交流祭代表（～1995年）、中日新聞ビデオ案内担当（～現在）</p> <p>1996年 あいち国際女性映画祭ディレクター（～現在）</p> <p>2005年 EXPO2005 フレンドシップ・フィルム・フェスティバルディレクター</p> <p>2007年 NHK 文化センター映像制作講師</p>